

監修

高木市之助
山岸德平

久松潛一
小島吉雄

萬葉集四

石藤佐森
井森伯本
庄朋梅治
司夫友吉
校校校解
註註註說

監修

高木市之助
山岸德平

久松潛一
小島吉雄

萬
葉
集
四

佐伯梅友校註
藤森朋夫校註
石井庄司校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

佐伯梅友（さへきうめとも）

明治三十二年埼玉縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學名譽教授、大東文化大學教授。主著「萬葉語研究、源氏物語新抄、古今和歌集等。

藤森朋夫（ふじもりともを）

明治三十一年長野縣生。昭和四十四年歿。昭和四年東北大學國文學科卒業。東京女子大學教授を経て大東文化大學教授。主著「堤中納言物語新釋、萬葉集研究書誌、近代秀歌等。

石井庄司（いしむしやうじ）

明治三十三年奈良縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學教授を経て東海大學教授。主著「國文學と國語教育、國語科教育法案等。

日本古典全書

「萬葉集」四 佐伯梅友・藤森朋夫・石井庄司校註

昭和二十八年三月二十五日初版發行

昭和四十七年二月二十八日第八版發行

印刷所 明善印刷株式會社

發行所 朝日新聞社（東京都千代田區

有樂町・大阪市北區中之島・北九

州市小倉區砂津・名古屋市中區榮）

定價 五六〇圓

目次

本文

〔訓〕

卷第十三……………三

雜歌……………三

三三二 雜歌二十七首

相聞……………一〇

三四〇 相聞歌五十七首

問答……………一四

三〇五 問答の歌十八首

譬喩歌……………一六

三三三 譬喩歌一首

〔原文〕

卷第十三……………一四三

雜歌……………一四三

三三二 雜歌二十七首

相聞……………一四九

三四〇 相聞歌五十七首

問答……………一六一

三〇五 問答歌十八首

譬喩歌……………一六四

三三三 譬喩歌一首

挽歌……………元

挽歌……………壹

三三四 挽歌二十四首

三三四 挽歌二十四首

卷第十四……………七

卷第十四……………七

東歌……………七

東歌……………七

三四八 上總國の雜歌一首

三四八 上總國雜歌一首

三四九 下總國の雜歌一首

三四九 下總國雜歌一首

三五〇 常陸國の雜歌二首

三五〇 常陸國雜歌二首

三五二 信濃國の雜歌一首

三五二 信濃國雜歌一首

相聞……………六

相聞……………六

三五三 遠江國の相聞往來の歌二首

三五三 遠江國相聞往來歌二首

三五五 駿河國の相聞往來の歌五首

三五五 駿河國相聞往來歌五首

三六〇 伊豆國の相聞往來の歌一首

三六〇 伊豆國相聞往來歌一首

三六一 相模國の相聞往來の歌十二首

三六一 相模國相聞往來歌十二首

三七七 武藏國の相聞往來の歌九首

三七七 武藏國相聞往來歌九首

三六二 上總國の相聞往來の歌二首

三六四 下總國の相聞往來の歌四首

三六八 常陸國の相聞往來の歌十首

三九八 信濃國の相聞往來の歌四首

三四二 上野國の相聞往來の歌二十二首

三四四 下野國の相聞往來の歌二首

三四六 陸奥國の相聞往來の歌三首

譬喩歌…………… 四

三四九 遠江國の譬喩歌一首

三四〇 駿河國の譬喩歌一首

三四一 相模國の譬喩歌三首

三四四 上野國の譬喩歌三首

三四七 陸奥國の譬喩歌一首

雜歌…………… 四

三四六 未勘國の雜歌十七首

三六二 上總國相聞往來歌二首

三六四 下總國相聞往來歌四首

三六八 常陸國相聞往來歌十首

三九八 信濃國相聞往來歌四首

三四二 上野國相聞往來歌二十二首

三四四 下野國相聞往來歌二首

三四六 陸奥國相聞往來歌三首

譬喩歌…………… 一六

三四九 遠江國譬喩歌一首

三四〇 駿河國譬喩歌一首

三四一 相模國譬喩歌三首

三四四 上野國譬喩歌三首

三四七 陸奥國譬喩歌一首

雜歌…………… 一七

三四六 未勘國雜歌十七首

相聞……………七

相聞……………二〇

三五六 未勘國の相聞往來の歌百十二首

三五六 未勘國相聞往來歌百十二首

防人の歌……………五

防人歌……………二〇五

三五六 未勘國の防人の歌五首

三五六 未勘國防人歌五首

警諭歌……………五

警諭歌……………二〇六

三五六 未勘國の警諭歌五首

三五六 未勘國警諭歌五首

挽歌……………七

挽歌……………二〇七

三五六 未勘國の挽歌一首

三五六 未勘國挽歌一首

卷第十五……………五

卷第十五……………二〇九

天平八年丙子夏六月、使を新羅國に遣はさる

天平八年丙子夏六月遣使新羅國

之時、使人等おのおの別を悲しみて贈答し、

之時使人等各悲別贈答及海路之

及海路の上に旅を働しみ思を陳べて作れる歌

上働旅陳思作歌 并 當所誦詠古

并に所に當りて誦詠せる古歌 一百四十五首……………五

歌一百四十五首……………二〇九

三五六 贈答の歌十一首

三五六 贈答歌十一首

三五九 秦間滿の詞一首

三五九 秦間滿詞一首

三五〇 蘆く私の家に還りて思を陳ぶる歌一首

三五〇 蘆還私家陳思歌一首

三五九 發するに臨める時の歌三首

三五九 臨發之時歌三首

三五八 船に乗り海に入りての路上に作れる歌八首

三五八 乘船入海路上作歌八首

三六〇 所に當りて誦詠せる古歌十首

三六〇 當所誦詠古歌十首

三六一 備後國水調郡 長井浦に舶泊てし夜作れる歌三首

三六一 備後國水調郡長井浦舶泊之夜作歌三首

三六二 風速一浦に舶泊てし夜作れる歌二首

三六二 風速浦舶泊之夜作歌二首

三六七 安藝國長門島にて舶を磯邊に泊てて作れる歌五首

三六七 安藝國長門島舶泊磯邊作歌五首

三六三 長門浦より舶出せし夜、月の光を仰ぎ觀て作れる

三六三 從長門浦舶出之夜仰觀月光作歌三首

歌三首

首

三五五 古き挽歌 丹比大夫の亡れる妻を懷み愴く挽歌一

三五五 古挽歌 丹比大夫懷愴亡妻挽歌一

首并に短歌一首

首并 短歌一首

三五七 物に屬きて思を發す歌一首并に短歌二首

三五七 屬物發思歌一首并短歌二首

三六〇 周防國玖珂郡 麻里布浦を行きし時作れる歌八首

三六〇 周防國玖珂郡麻里布浦行之時作歌

八首

三三六 大島の鳴門を過ぎて再宿を経たる後、追ひて作れる歌二首

三三六 過大島鳴門而經再宿之後追作歌二首

熊毛浦に舶泊てし夜作れる歌四首

四首

三三四 熊毛浦に舶泊てし夜作れる歌四首

三三四 熊毛浦舶泊之夜作歌四首

三三四 佐婆の海中に忽ちに逆風に遭ひ、漂流して、豊前國下毛郡分間浦に著き、艱難を追ひ怛みて作れる歌八首

三三四 佐婆海中忽遭逆風漂流著豊前國下毛郡分間浦追怛艱難作歌八首

三三三 筑紫の館に至り、遙に本郷を望み、懐み愴きて作れる歌四首

三三三 至筑紫館遙望本郷懐愴作歌四首

七夕に天漢を仰ぎ觀て、おのおの思ふ所を陳べて作れる歌三首

三三五 七夕仰觀天漢各陳所思作歌三首

三三五 海邊に月を望みて作れる歌九首

三三五 海邊望月作歌九首

筑前國志摩郡の韓亭に到りて作れる歌六首

三三六 到筑前國志摩郡之韓亭作歌六首

三三七 引津亭に舶泊てて作れる歌七首

三三七 引津亭舶泊之作歌七首

肥前國松浦郡狛島亭に舶泊てし夜作れる歌七

三三八 肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜作歌

三三八 肥前國松浦郡狛島亭に舶泊てし夜作れる歌七

三三八 肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜作歌

三三八 肥前國松浦郡狛島亭に舶泊てし夜作れる歌七

三三八 肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜作歌

三三八 肥前國松浦郡狛島亭に舶泊てし夜作れる歌七

三三八 肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜作歌

三三八 肥前國松浦郡狛島亭に舶泊てし夜作れる歌七

三三八 肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜作歌

首

三六八 挽歌 壹岐島に到りて、雪連宅滿の死去りし時

作れる歌一首并に短歌二首

三六九 葛井連子老の作れる歌一首并に短歌二首

三六四 六鯖の作れる歌一首并に短歌二首

三六七 對馬島の淺茅浦に到りて舶泊てし時作れる歌三首

三七〇 竹敷浦に舶泊てし時作れる歌十八首

三七八 筑紫に回り來て海路京に入るに、播磨國家島に到

りて作れる歌五首

中臣朝臣宅守、藏部の女孀狹野の茅上娘子

を娶りし時、勅して流罪に斷じて、越前國に

配せらる。ここに夫婦別れ易く會ひ難きを相

嘆き、おのおの慟しき情を陳ぶる贈答の歌六

十三首……………七六

三七三 別に臨み娘子の悲しみ嘆きて作れる歌四首

七首

三六八 挽歌 到壹岐島雪連宅滿死去之時

作歌一首并短歌二首

三六九 葛井連子老作歌一首并短歌二首

三六四 六鯖作歌一首并短歌二首

三六七 到對馬島淺茅浦舶泊之時作歌三首

三七〇 竹敷浦舶泊之時作歌十八首

三七八 回來筑紫海路人京到播磨國家島作

歌五首

中臣朝臣宅守娶藏部女孀狹野茅

上娘子之時勅斷流罪配越前國也

於是夫婦相嘆易別難會各陳慟情

贈答歌六十三首……………三三四

三七三 臨別娘子悲嘆作歌四首

三七七 中臣朝臣宅守の道に上りて作れる歌四首

三七七 中臣朝臣宅守上道作歌四首

三七三 配所に至りて中臣朝臣宅守の作れる歌十四首

三七三 至配所中臣朝臣宅守作歌十四首

三七四 娘子京きょうに留りて悲しみ傷みて作れる歌九首

三七四 娘子留京悲傷作歌九首

三七四 中臣朝臣宅守の作れる歌十三首

三七四 中臣朝臣宅守作歌十三首

三七七 娘子にょうぢの作れる歌八首

三七七 娘子作歌八首

三七五 中臣朝臣宅守の、更に贈れる歌二首

三七五 中臣朝臣宅守更贈歌二首

三七七 娘子にょうぢ和へ贈れる歌二首

三七七 娘子和贈歌二首

三七九 中臣朝臣宅守が花鳥に寄せ、思を陳べて作れる歌

三七九 中臣朝臣宅守寄花鳥陳思作歌七首

七首

卷第十六…………… 八三

卷第十六…………… 二四五

由縁ゆかりある雑歌…………… 八三

有由縁雑歌…………… 二四五

三七六 ふたりの壯士むすしの、娘子にょうぢを誂つまとひしに、遂に壯士むすしに適あ

三七六 二壯士誂娘子遂嫌適壯士入林中死

はむことを嫌ひて、林の中に入りて死みまりし時、お

時各陳心緒作歌二首

のおの心緒おもひを陳べて作れる歌二首

三七六 みたりの男の、共にひとり女の女を媿ひしに、娘子

嘆息きて水底に沈没し時、哀傷に勝へず、おの

おの心を陳べて作れる歌三首

三七九 竹取翁の、たまたま九箇の神女に逢ひ、近く狎れ

し罪を贖ひて作れる歌一首并に短歌

三七九 娘子等の和ふる歌九首

三八〇 娘子の、竊に壯士に交接りし時、親に知らせまく

欲りして、その夫に與へたる歌一首

三八四 壯士の専ら使節として遠き境に赴きしかば、娘子

年を累ねて姿容の疲羸せることを悲歎せしに、壯

士の還り來て涙を流して口號める歌一首

三八五 娘子の、夫の君の歌を聞き、聲に應へて和ふる歌

一首

三八六 女子の、竊に壯士に接ひて、その親呵嘖し、壯士

悚惕せし時、娘子の夫に贈り與ふる歌一首

三七八 三男共媁一女娘子嘆息沈没水底時

不勝哀傷各陳心作歌三首

三七九 竹取翁偶逢九箇神女贖近狎之罪作

歌一首并短歌

三七九 娘子等和歌九首

三八〇 娘子竊交接壯士時欲令知親與其夫

歌一首

三八四 壯士専使節赴遠境娘子累年悲嘆姿

容疲羸壯士還來流淚口號歌一首

三八五 娘子聞夫君歌應聲和歌一首

一首

三八六 女子竊接壯士其親呵嘖壯士悚惕時

娘子贈與夫歌一首

三〇七 葛城王、陸奥に發おほききし時、祇承の緩怠ゆるおそなりしか

三〇七 葛城王發陸奥時祇承緩怠王意不悅

ば、王の意こころ悦よろこばざりしに、采女の觴さかづきを捧たげて詠

采女捧觴詠歌一首

める歌一首

三〇八 男女の衆ともらつと集あつひて野遊のあそびせし時に、鄙人の夫婦あり、

三〇八 男女衆集野遊時有鄙人夫婦容姿秀

容姿衆諸もろびとに秀すぐれたり。よつて美貌を贊嘆たたせる歌一

衆諸仍贊嘆美貌歌一首

首

三〇九 幸うれはせらえし娘子、寵薄めぐみれて寄物かたみを還し賜たまひし

三〇九 所幸娘子寵薄還賜寄物時娘子怨恨

時、娘子の怨恨うらめる歌一首

歌一首

三一〇 ある時、娘子、夫に相別あひわかれて後、夫の正身ただみ來きら

三一〇 時娘子相別夫後夫正身不來徒賜褻

ず、ただ褻物つてを賜たまへるに、娘子の還し酬たまゆる歌

物娘子還酬歌一首

一首

三一二 夫の君に戀こふる歌一首并短歌

三一二 戀夫君歌一首并短歌

三一三 ある時、娘子、夫の君に戀こひ、痾瘦やまひに沈かみ臥ふして、

三一三 時娘子戀夫君沈臥痾瘦喚其夫逝沒

その夫を喚よび、逝沒みまかりし時、口號くわめる歌一首

時口號歌一首

三二四 贈れる歌一首

三二四 贈歌一首

三二五 娘子の、夫の君に棄てらえて、改めて他あだし氏しに適ゆ

きしに、壯士改め適きしことを知らざりしかば、

改め適きし縁を顯す歌一首

三二五 娘子見棄夫君改適他氏壯士不知改

適顯改適之縁歌一首

三二六 穗積ほづみ親王の、宴飲うたげの日、酒酣さかなる御歌一首

三二六 穗積親王宴飲日酒酣御歌一首

三二七 河村かはむら王の、宴居うたげに琴を弾きてまづ誦する歌二

三二七 河村王宴居彈琴先誦歌二首

首

三二九 小鯛こだい王の、宴居に琴を取りてまづ詠する歌二

三二九 小鯛王宴居取琴先詠歌二首

首

三三〇 兒部こべ女王の噺はな歌一首

三三〇 兒部女王噺歌一首

三三一 椎野連しひのむら長年の歌一首

三三一 椎野連長年歌一首

三三二 又また和なふる歌一首

三三二 又和歌一首

三三四 長忌ながの寸意みき吉麻呂の歌八首

三三四 長忌寸意吉麻呂歌八首

三三五 忌部いみべ首の、數種くさくさの物を詠める歌一首

三三五 忌部首詠數種物歌一首

三三六 境部さかひべ王の、數種くさくさの物を詠める歌一首

三三六 境部王詠數種物歌一首

三三七 作主つくりぬしのいまだ詳つまびらかならざる歌一首

三三七 作主未詳歌一首

三六三 新田部親王に 獻れる歌一首

三六三 獻新田部親王歌一首

三六三 行文大夫の、佞人を誘ふ歌一首

三六三 行文大夫誘佞人歌一首

三六七 府官酒食を設けて、右兵衛 名失す を誘ひて、荷

三六七 府官設酒食誘右兵衛 名失 關荷葉

葉に關けて歌を作らしめしに、そのとき聲に應へ

作歌登時應聲歌一首

て歌へる一首

三六三 心の著くところ無き歌二首

三六三 無心所著歌二首

三六四 池田朝臣の、大神朝臣奥守を嗤ふ歌一首

三六四 池田朝臣嗤大神朝臣奥守歌一首

三六四 大神朝臣奥守の、報へ嗤ふ歌一首

三六四 大神朝臣奥守報嗤歌一首

三六四 平群朝臣の嗤ふ歌一首

三六四 平群朝臣嗤歌一首

三六四 穗積朝臣の和ふる歌一首

三六四 穗積朝臣和歌一首

三六四 土師宿禰水通の、巨勢朝臣豊人等の黑色を嗤ひ

三六四 土師宿禰水通嗤嗤巨勢朝臣豊人等

歌一首

黑色歌一首

三六四 巨勢豊人の、これを聞きて酬ひ嗤ふ歌一首

三六四 巨勢豊人聞之酬嗤歌一首

三六四 戲に僧を嗤ふ歌一首

三六四 戲嗤僧歌一首

三六四 法師の報ふる歌一首

三六四 法師報歌一首

三六四 忌部黒麻呂の、夢のうちに作れる歌一首

三六三 河原寺の和琴の面の無常の歌二首

三六一 また無常の歌二首

三五五 大伴宿禰家持の、吉田連石鷹の瘦せたるを嗤咲

ふ歌二首

三五五 高宮王の、數種の物を詠める歌二首

三五七 夫の君に戀ふる歌一首

三五五 また戀の歌二首

三六〇 筑前の國の志賀の白水郎の歌十首

三六〇 無名の歌六首

三六七 豊前の國の白水郎の歌一首

三六七 豊後の國の白水郎の歌一首

三六七 能登の國の歌三首

三六一 越中の國の歌四首

三六五 乞食者の詠歌二首

三六四 忌部黒麻呂夢裡作哥一首

三六三 河原寺和琴面無常歌二首

三六一 又無常歌二首

三五五 大伴宿禰家持嗤咲吉田連石鷹瘦歌

二首

三五五 高宮王詠數種物歌二首

三五七 戀夫君歌一首

三五五 又戀歌二首

三六〇 筑前國志賀白水郎歌十首

三六〇 無名歌六首

三六七 豊前國白水郎歌一首

三六七 豊後國白水郎歌一首

三六七 能登國歌三首

三六一 越中國歌四首

三六五 乞食者詠歌二首

三八七 怕おそろしき物の歌三首

三八七 怕物歌三首

卷第十七……………一〇九

卷第十七……………三六五

三九〇 天平二年庚午の冬十一月、太宰の帥大伴の卿の、

三九〇 天平二年庚午冬十一月大宰帥大伴

大納言に任まけられ、京に上りし時、僉従の人等別

卿被任大納言上京時僉従人等別取

に海路を取りて京に入る。ここに羈旅を悲しみ傷

海路入京於是悲傷羈旅各陳所心作

み、おのおの所心おもひを陳べて作れる歌十首

歌十首

三九〇 同十年前七月七日、大伴宿禰家持、ひとり天漢

三九〇 同十年七月七日大伴宿禰家持獨仰

を仰あやぎていささか懐こころを述ぶる歌一首

天漢聊述懷歌一首

三九二 同十二年十二月九日、大伴宿禰家持、太宰の時

三九二 同十二年十二月九日大伴宿禰家持

の梅花に追おひて和なふる新しき歌六首

追和大宰時梅花新歌六首

三九七 同十三年二月、右馬頭境部宿禰老麻呂の、三香

三九七 同十三年二月右馬頭境部宿禰老麻

の原はらの新しき都を讃ほむる歌一首并に短歌

呂讚三香原新都歌一首并短歌

三九〇 四月二日、大伴宿禰書持の、霍公鳥を詠みて兄家

三九〇 四月二日大伴宿禰書持詠霍公鳥贈

持に贈れる歌二首

兄家持歌二首